

ちどり

vol.43

JANUARY 2020



特集1 感染症センターの紹介

特集2 診療科のご紹介 感染症内科

特集3 地域へつながる、つなげる取り組み
頼られる総合支援センターを目指して

Contents

- 病院長 年頭あいさつ
- 就任のごあいさつ
- チーム医療 PCT 緩和ケアチーム・RST 呼吸ケアサポートチーム

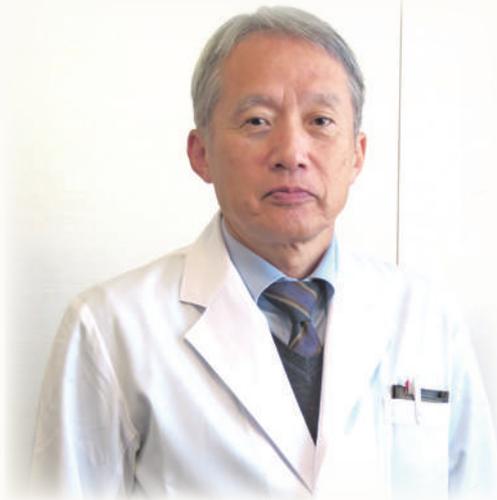
- 当院のおすすめスポット
- 市民公開講座を開催しました
- いずみ病棟開設 50周年記念行事を開催

2020

年頭あいさつ

あけまして おめでとうございます

病院長 江崎 卓弘



元号が「平成」から「令和」に変わった昨年、初めてのアジア開催であるラグビーワールドカップは日本中を熱狂させ、日本代表チームは初のベスト8進出を果たし、そのスローガン「ONE TEAM」は流行語大賞にも選ばれました。一方、2018年に続き2019年も温暖化の影響と思われる自然災害が頻発しました。被災された地域の皆様には一刻も早い復興をお祈り申し上げます。

医療に係る話題は何といても“働き方改革”と“地域医療構想”です。

病院における“働き方改革”は昨年4月から医師以外の職員に「罰則付きの時間外労働の上限規制」が始まりました。医師については2024年から開始予定です。

今後は医師の業務改善のため、多職種によるチーム医療、医師事務作業補助者、特定行為看護師、診療看護師等によるタスクシェア・タスクシフトを推進し、診療環境の整備を図っていかねばなりません。患者さん・ご家族にも変化していく病院の診療体制をご理解いただきたいと思います。

2025年に向けた“地域医療構想”は数年前から議論されてきましたが、昨年『公立病院と公的病院の再編統合』について特に議論が必要な病院名が公表されました。少子高齢化により2025年以降の総人口は減少していきます。75歳以上人口は変わらず15～64歳人口が減少します。地域で完結する医療をめざし各施設の役割分担と連携をどのように進めていくか更なる検討が必要です。

病院運営は近年、現状を維持するだけでは難しくなってきました。今はまさに“変化に適応できるものが生き残る”時機であり、これを実践する大きな曲がり角です。

令和2年目の本年は再び診療報酬改定が行われ、“働き方改革”も併せ多くの医療機関は厳しい年を迎えることになります。

福岡東医療センターは2017年から『当たり前のことを実践し、地域に信頼される病院』を目指し、「救急医療の強化に加え、がん診療と重症心身障害にも積極的に取り組み、良質な医療を提供する」を目標に努力してきました。当院が地域に必要な病院であり続けるために、地域の医療機関、医師会、行政等と連携協力しこの変革期を職員一丸となって頑張りますので、ご理解とご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

今年はオリンピック・パラリンピックが56年ぶりに日本で開催されます。きっと多くの感動をあたえてくれるものと楽しみにしています。

本年が素晴らしい年であることを祈念し年頭のご挨拶といたします。

就任の ごあいさつ

今回、新たに
福岡東医療センターへ
配属された先生方を
ご紹介します

氏名 かじやま しょうた
梶山 渉太

職名 循環器科医師

資格 日本内科学会認定医

所属学会 CVIT、日本循環器学会
日本内科学会、日本感染症学会

専門 循環器内科

コメント

心臓と下肢血管を主体に診療をさせて頂いています。専門分野だけでなく、一内科医として地域に貢献活躍できる様一生懸命頑張っていきます。未熟者ですが、精一杯頑張りますのでよろしくお願いします。



氏名 かわの だい
河野 大

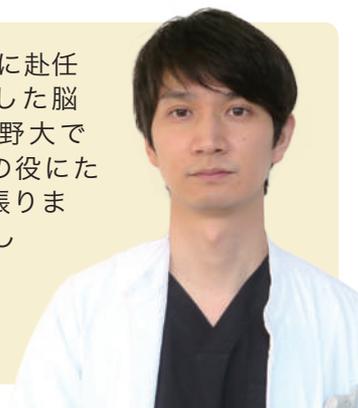
職名 脳神経外科医師

資格 日本脳神経外科学会 専門医

所属学会 日本脳神経外科学会
日本脳卒中学会
日本脳神経血管内治療学会

コメント

10月より当院に赴任してまいりました脳神経外科の河野大です。地域の方の役にたてるように頑張りますので、よろしくお願い致します。



氏名 かわの ともみ
河野 友美

職名 麻酔科医師

資格 麻酔標榜医

所属学会 日本麻酔科学会

コメント

10月よりお世話になります。丁寧な診療を心がけます。



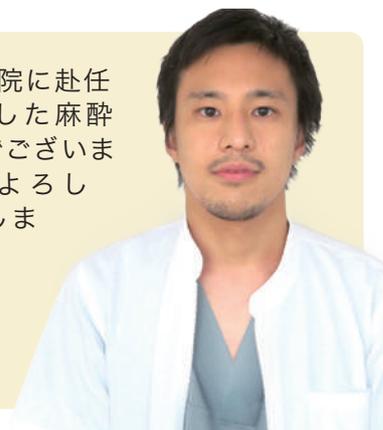
氏名 おちあい すすむ
落合 晋

職名 麻酔科医師

所属学会 日本麻酔科学会

コメント

10月より当院に赴任して参りました麻酔科の落合晋でございます。どうぞよろしくお願い致します。



感染症センターのご紹介

1 はじめに

近年、アフリカにおけるエボラ出血熱のアウトブレイクなど海外からの新興・再興感染症の話題がマスコミを賑わせています。交通機関の発達した現今、我が国も無縁とは言えません。特に福岡地区は福岡空港や博多港をかかえ海外との人的往来も盛んなため、検疫での水際対策そして感染を封じ込めるための収容医療機関は非常に重要です。当院は第一種及び第二種感染症指定医療機関に平成 26 年 7 月 1 日をもって指定されました。この場をお借りして当院の感染症指定医療機関としての概要を紹介させていただきます。

2 感染症指定医療機関とは

感染症指定医療機関とは感染症法に基づき都道府県知事が指定する医療機関です。感染症法で規定する『感染力や重篤性からみた危険性が（極めて）高い』感染症患者を収容し治療・管理します。1 類感染症はエボラ出血熱などの 7 疾患が、2 類感染症は重症急性呼吸器症候群（SARS）、中東呼吸器症候群（MERS）などの 7 疾患が指定されています。また新型インフルエンザも受入対象疾患です。

3 施設の概要

感染症センターは当院敷地の北東に位置し、1 類感染症を収容する一種病棟、2 類感染症を収容する二種病棟から構成され、最大 12 名が収容可能です。病室には前室が設置され、病室内の空気が外部に拡散しないように廊下→前室→病室と徐々に気圧が低くなるように設計されています。病室内空気は HEPA フィルターで濾過後に外部へ放出されるため外部への感染拡大の恐れ



福岡東医療センター 感染症センター
向かって右から 2 室が第一種病室

がありません。スタッフ動線と患者動線は完全に分離され、外部から病室内へ直接入れるドアがあり、患者搬入時には内部を汚染することなく収容可能です。

4 患者発生時の対応訓練及び他の医療機関との連携

エボラウイルス感染症などによる 1 類及び 2 類感染症患者が発生した際に保健所、検疫所といった行政機関と緊密な連携をとる必要があります。当院では、模擬患者を設定して、患者発生時の連絡、搬送の共同訓練を、関係機関と年 2 回行っています。今年度は 6 月に粕屋保健所、福岡県とのエボラ出血熱受け入れ訓練、11 月には北筑後保健所、福岡県との新型インフルエンザ受け入れ訓練を行いました。また年に 1 回開催している福岡県内 2 種感染症医療機関との合同訓練では、防護具の着脱訓練や感染症受け入れに関する意見交換も行っています。



廊下側から見た
前室及び病室

个人防护具を
着用しての診察
(訓練)



外部ドアからの
患者搬入 (訓練)



5 おわりに

国を越えて人の往来がますます活発化する国際状況にあっては、エボラウイルス感染症や MERS をはじめとした新たな感染症が、いつ我が国に侵入するのか誰も予想することが出来ません。そうした有事に備えるためにも感染症センターは必要であり、その使命を果たしていきたいと思っております。これからも地域の皆様の変わりぬご支援をよろしくお願ひします。

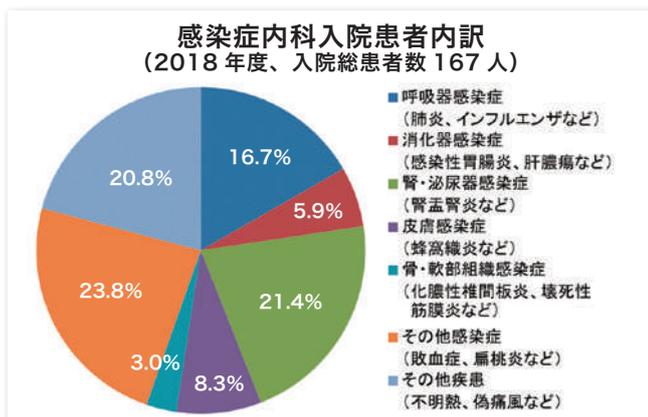
近年、中国における新型肺炎の発生、薬剤耐性菌による院内感染など、様々な感染症がマスコミにも取り上げられ話題になっています。感染症は、あらゆる臓器・器官で引き起こされます。さらに高齢化や高度医療導入などにより、免疫状態が低下している患者さんが増加しており、通常では感染症を起こさないような微生物であっても感染症の原因になるなど、感染症の診断や治療は困難さを増しています。当科は感染症に専門的に取り組む診療部門として2012年4月に開設されました。現在は医師2人（肥山、南）で対応しております。細菌、ウイルス、真菌、寄生虫などさまざまな微生物による感染症疾患、不明熱等の外来診療及び入院診療を行っています。診療以外にも院内の他診療科において併発した感染症のコンサルテーションも行っております。院内感染症の発生防止も重要な業務です。院内で検出された薬剤耐性菌や抗菌剤の適切な使用について、多職種（看護師、薬剤師及び検査技師）での定期的なカンファレンス及び院内ラウンド（ICT活動）を行っています。

また海外渡航後の発熱や下痢などの症状のある方の診療、エボラ出血熱、鳥インフルエンザなどの感染症法で規定される1類・2類感染症受け入れ対応も行っていきます。

1 入院診療

特定の臓器の感染症に限らず、総合的・横断的に診療することに努めています。

治療にあたっては科学的根拠に基づき、患者様一人一人に最適な感染症治療を行います。



発熱の原因は薬の副作用、腫瘍（癌やリンパ腫）、膠原病感染症など感染症以外の原因のこともあります。その場合適切な診療科や医療機関にご紹介させていただきます。

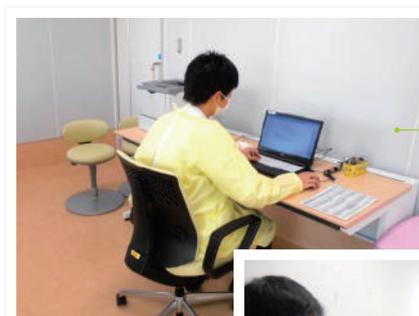
2 外来診療

発熱などの症状があり感染症が疑われる方や、他院で感染症として診断を受けられた方などを対象に診療しています。初診受付は原則として火曜日、金曜日の午前8時30分から午前11時までです。具合が悪い方は随時診療します。

また紹介機関から初診予約も受け付けています。はしか（麻疹）や水ぼうそう（水痘）など感染力が強い疾患は、空気が流れださない診察室（陰圧構造）で隔離治療を行うことで院内感染を防いでいます。HIV感染症の検査はできますが、治療が必要な場合には専門病院へご紹介致します。

患者様及び紹介医療機関様へのお願い

- エボラ出血熱や鳥インフルエンザなど感染症法による1類・2類感染症が疑われる場合はまず、最寄りの保健所へご連絡をお願いいたします。
- 海外から帰国後の発熱や腹部症状などがある患者様（1類・2類感染症以外）は当科医師へお電話をお願いいたします。



陰圧診察室



院内感染対策カンファレンス (ICT活動)

特集 3

Activities Introduction

地域へつながる、つなげる取り組み

頼られる**総合支援センター**を目指して

今回は、総合支援センターの取り組みをご紹介します。と思います。

「医療で地域に貢献することが私たちの使命です。」を実践する福岡東医療センターの窓口として、総合支援センターは『地域医療連携室』『入院支援室』『がん相談支援センター』から構成されています。

医師、看護師、MSW、事務部門スタッフが協働し、地域連携に関すること、患者さんご家族からのご相談、研修案内等々、気軽に頼られ、信頼される総合支援センターを目指しています。

本号では、令和を迎えての総合支援センターの活動を振り返ります。



地域医療連携室 『気軽に頼れる連携室』を目指して

地域医療連携室長（循環器科医長） 小池 明広

24時間365日『断らない医療』を実践しつつ、シームレスな医療連携を育む事が地域医療連携室の使命です。残念ながら総合病院ではありませんので、全ての病める患者さんに満足いく医療を提供できる訳ではありませんが、有する診療科の総力を結集して地域のみなさまにとっての頼れる病院をこれからも目指していきます。

高齢化が進む本邦の医療現場において、複数の疾患を有し多様な症状を呈する患者さんは明らかに増えており、患者さんやその家族だけでなく、日々最前線でそのような患者さんを診ておられるクリニックの先生方もその先の医療をどこの病院のどの診療科に委ねるべきか悩む事も多くなってきているのではないのでしょうか。そのような時にこそぜひ当院の連携室をご利用ください。

ご相談いただいた内容につきまして、医師や看護師

をはじめとした連携室のスタッフで迅速に協議し、当院で受け入れ可能な患者さんはもちろん、受け入れ困難な患者さんにつきましても連携室のネットワークをフルに活用して最善な医療施設を可能な範囲で探すお手伝いをさせていただきます。

ご紹介いただいた患者さんの経過につきましては遅滞なくご報告させていただきますが、万が一にも返信が滞るようでしたら、いつでも連携室までご連絡下さい。速やかに対応させていただきます。また紹介の有無に関わらず当院での診療歴がある患者さんの情報をご入用な際にも当院連携室までお気軽にご相談ください。

病病、病診など医療連携の一層の円滑化をはかることで、古賀、宗像、福津、粕屋地区の地域医療に貢献する『気軽に頼れる連携室』を目指し、スタッフ一同日々精進してまいりますので、どうか宜しくお願いいたします。

地域医療
連携室直通

TEL 0120-212-454

FAX 0120-087-437 (平日 8:30 ~ 17:15)

総合支援センター 『令和元年』の活動報告

地域医療連携係長 土井 晴代

1 10月には 市民公開講座を開催しました

地域への貢献を考
えて、今年から市民
公開講座を再開しまし
た。令和元年10月
12日「もっと知ってほ
しい“福岡東医療セン
ター”」をテーマに市民
公開講座を開催しまし
た。実行委員会で準備
を進め、当日は台風の
影響で強風にも関わら
ず、市民のみなさんに
ご参加頂きました。



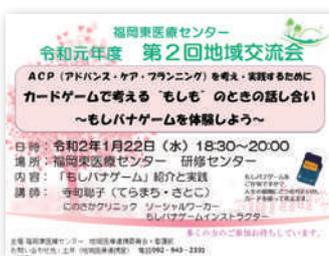
当院スタッフの栄養・
薬剤・リハビリ相談や減
塩味噌汁の試食、古賀市
から検診相談のコーナー
もありました。次年度も
地域の方々が参加したく
なるような企画をしてい
きたいと思います。



2 4月:総合支援センターは 退院調整看護師の増員でパワーアップ

4月には、新たな退院調整看護師を3名迎え、入院支援室も4名の新たなメンバーになりました。入院支援室は月300名以上の患者さんが利用されています。外来・入院前からの支援、退院調整で、患者さん・ご家族が安心して入院、そして退院を迎えられるように院内職員、地域の関係者の方々と連携を図っています。地域医療支援病院として患者相談、地域からのお尋ねや相談など、病院の地域連携の窓口として、さらに幅広く活動していきます。

3 『地域交流会』2019年度のテーマは 「ACP (アドバンス・ケア・プランニング)」



7月の第一回目は、
院内・院外から124
名のみなまの参加が
ありました。『人生の
最終段階』をどう支援
すればよいか、お互い
の悩みを共有し、さま

ざまな意見交換を多職種で行いました。ACPの取り
組みは、今後も行っていきます。次回の地域交流会は
1月です。



4 がん患者サロンやイベントで がん相談支援センターも活動

今年も「リレー・フォー・ライフ」への参加、古
賀市図書館での講演会、出張がん相談を行いました。
地域への研修会では、地域医療の実際やがん教室の
体験などあらたなテーマをとりあげました。患者さん
の集うピアサポート「ひまわりサロン」も2ヶ月毎(偶
数月)に開催しています。今年も、MSWを中心に就
労支援に取り組んだ1年でした。

5 開放型病床登録医療機関の 掲示板を新しくしました

今年も新規登録を頂いています。掲示板の前で患者
さん方も足をとめて見られています。

今後もかかりつけ医との連携をより図っていきます。
新規の登録をお待ちしています。



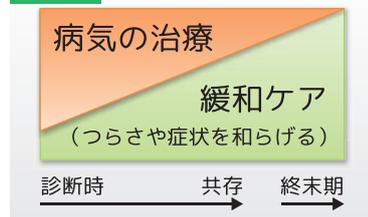
『総合支援センター』の名称はまだまだ浸透してい
ないのですが、「地域医療連携室」「入院支援室」「が
ん相談支援センター」それぞれ、地域医療支援病院
の窓口として、より一層チーム力や対応力を高めてい
きたいと思います。総合支援センターへのご要望やご
意見、ご相談などいつでもお気軽にご連絡ください。

令和元年も大変お世話になり、有難うございま
した。新しい年もどうぞよろしくお願い致します。

緩和ケアチーム専従看護師 百崎 真由美 緩和医療室長・外科部長 大賀 文史

緩和ケアは、体のつらさ、気持ちのつらさ、生活上のつらさを抱えた患者さんやご家族を、総合的に支えていく医療のことです。緩和ケアは「終末期」に限らず、生命を脅かす病気の診断から治療のあらゆる過程において、受けることができるケアです（図1）。

図1



当院は、2005年12月に地域がん診療連携拠点病院の指定を受け、2007年4月に緩和ケアチームが発足しました。活動当初は、緩和ケアチームの認知度も低く、相談依頼件数も少なかったですが、定期的な病棟ラウンドを行い、少しずつ活動実績を上げていきました。チームメンバーは身体症状担当医師、精神症状担当医師、看護師、薬剤師、リハビリなど多職種で活動しています（写真1）。



写真1

現在の主な活動として、週2回（月曜日・金曜日）の定期的な病棟ラウンドや毎週水曜日に緩和ケアカンファレンスを実施し、疼痛管理を含めた症状緩和、精神症状の緩和を行っています。また、必要に応じて臨時ラウンドやベッドサイド回診を行い、迅速かつ適切な緩和ケアが提供できるように努めています。チームメンバーの中には、緩和ケア認定看護師が在籍していますので、病名告知や病状説明の際は一緒に同席



写真2

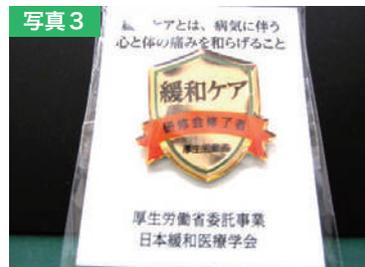


写真3

し、継続的な心理的サポートを行い、緩和ケアチームと情報共有を図りながら活動しています。2009年より緩和ケア研修会を開催し院内外スタッフの緩和ケアに関する知識の向上への取り組みも継続して行っております（写真2、3）

急性期病院の当院では、2015年より患者さんやご家族の心身のつらさを把握するツールとしてスクリーニングを導入し、早期からの緩和ケア推進に取り組んでいます（図2）。緩和ケアチームが主治医や病棟スタッフ、多職種スタッフと連携し、患者さんやご家族が「自分らしく生活していくこと」を支援しています。どんなことでも「つらい」と思ったら、積極的に医療者へ伝えてください。今後も院内外における緩和ケアの推進や啓発、患者さん、ご家族のQOLの向上を目指し、チーム活動を強化していきたいと思ひます。

図2

「あなたの気持ちや生活についての確認用紙」

記入者(患者様) □ 家族の方 □ 医師(看護士)

1. 気になること、心配していることをご記入ください

2. 以下の症状が「多い」ときは、どれくらいの頻度でしたか？数字にのぼしてご記入ください。空欄の場合は「ありません」

① 痛み(一番強いとき)	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10
(一番弱いとき)	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10
② しびれ	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10
③ ねむけ(よく寝たとき)	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10
④ だるさ(つかれ)	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10
⑤ 息切れ(息苦しさ)	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10
⑥ 食欲不振	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10
⑦ 吐き気	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

3. 現在の生活についてお答えください

4. 緩和ケアチームへの相談を希望しますか？

5. 今後の生活についてお答えください

6. 今後の生活についてお答えください

7. 今後の生活についてお答えください

8. 今後の生活についてお答えください

9. 今後の生活についてお答えください

10. 今後の生活についてお答えください

呼 吸不全患者の高齢化や医療の高度化により、呼吸管理を取り巻く環境は複雑になっています。また急性期のみならず亜急性期・慢性期にいたる過程において、連続性のある呼吸ケアが求められるようになってきました。適切な呼吸管理・ケアを集学的に実践するためには医師・看護師だけでなく、理学療法士や臨床工学技士といった多職種への参加が必要となります。当院ではそれを実践する組織として平成30年4月に呼吸ケアサポートチーム(RST)を設立いたしました。現在のチーム構成は医師が3名(呼吸器内科・呼吸器外科)、看護師が7名、理学療法士1名、臨

床工学技士1名となっております。チーム内には呼吸療法認定士の資格を持つスタッフや救急看護認定看護師が在籍しており、呼吸療法に対してモチベーションの高いメンバーが揃っております。当チームは主治医と連携をとりつつ、酸素や人工呼吸器の適正かつ安全な使用だけでなく、呼吸不全患者に対する医療・看護の質向上、酸素療法・人工呼吸器装着期間の短縮、QOLの向上、予後の改善を目指して活動を行っています。

具 体的な活動内容ですが、毎週水曜日に依頼された人工呼吸管理中の患者を回診し、アセスメントシートを用いて抽出した問題点とその

呼吸器内科医長 山下 崇史

対策を主治医や担当看護師に提言いたします。呼吸器設定のトラブルなど、緊急症例にも対応しております。

教 育活動としては、年5回にわたって呼吸管理に関する院内レクチャーを行っており、本年度は「呼吸療法マニュアル」の作成をいたしました。また効果的な呼吸ケアが行えるよう、様々なデバイスの購入、調整を行っております。

当 院全てのスタッフが「あたりまえの呼吸ケアをあたりまえに提供できる」よう、日々試行錯誤を重ねておりますが、チーム一丸となって頑張りたいと思います。



当院の

おすすめスポット

薬剤部

管理棟2階 待合スペース

外来受付 2 階のこの待合スペースは、日中は明るく開放感があり、病棟からも離れているためあまり混雑せず穴場的なスポットとなっています。



同じフロアには薬剤部や検査科、リハビリテーション科などがあります。自動販売機や広々としたソファもありますので、外来でお待ちの際などにおくつろぎいただけます。現在はエゾシマリスの写真も飾ってありますので、かわいい写真に癒されに来てはいかがでしょうか？

放射線科

骨密度撮影装置



当院では、信頼性が高く、世界中で使用されている米国ホロジック社の「骨密度測定装置 Horizon」が導入されました。

20 代をピークに、骨の量は次第に減少していきます。骨がもろくなると、腰痛や骨折の原因となり「骨粗鬆症」と呼ばれます。腰痛や大腿骨の骨折で、寝たきりにならないためにも、定期的な検査をおすすめします。

第1回 福岡東医療センター 市民公開講座を開催しました

外科部長 大賀 文史

令和元年 10 月 12 日 (土) 13:30 ~ 16:00 に福岡東医療センター研修センターで第1回福岡東医療センター市民公開講座を開催しました。台風 19 号が関東に近づき、時折強い風が吹いていましたが 47 名の市民の方が参加しました。来賓として田辺一城古賀市市長、松尾喬之粕屋医師会会長も参加された中、江崎病院長の開会の挨拶で始まりました。

市民公開講座は、第1部がかかりつけ医の役割や当院の自己紹介と受診の仕方に関する講演でスタートしました。第2部は脳卒中の講演とパネルディスカッションを行いました。パネルディスカッションでは市民の方々から率直な質問に対して当院の各種職員が専門的な見地から回答する運びで進められ、活発な質疑応答が繰り広げられました。参加者の表情からも今回の企画内容に満足している様な光景を見ることができ、大変有意義な会であったと安堵した次第です。

最後に、今回の市民公開講座の企画責任者を務められた中根副院長の閉会の挨拶で会を終了しました。

Report

福岡東医療センター市民公開講座

第1回 もっと知ってほしい

“福岡東医療センター”

～見て、聴いて、尋ねてみよう～



第1部 「在宅医療とかかりつけ医」 粕屋医師会会長 松尾 喬之先生
「上手な病院のかかり方」 地域連携室係長 土井 晴代

第2部 「脳卒中にならないために・なってしまったら」
脳神経内科部長 黒田 淳哉
脳神経外科部長 大城 真也
「パネルディスカッション」 いろいろな職種と考えよう
(看護師、薬剤師、栄養士、リハビリ療法士)

参加費 無料

無料健康相談を実施します！
12時30分～13時30分
各ブース先着5名

日時: 10月12日(土)

13時30分～16時(受付:12時30分～)

場所: 福岡東医療センター外来棟3階研修センター

公開講座 事前申込不要。

健康相談 「栄養相談」「お薬相談」「リハビリ相談」「検診相談」の個別相談を実施します。当日受付にて申込み(※12:30～受付)

お問い合わせ: 福岡東医療センター 地域医療連携室 電話092-943-2331(代表)(平日8:30～17:15)

いずみ病棟 開設 50 周年記念行事を開催

令和元年 11 月 16 日(土)

療育指導室長 酒井 英佑

現 在、いずみ（重症心身障害児者）病棟では 1 歳～ 74 歳までの 117 名の方々が入所されています。その中で、在院年数が 40 年を超える方が全体の 40%を占めています。

今 回、50 周年という大きな節目に記念行事を企画し、開催しました。お楽しみ会は JOY 倶楽部による演奏、記念式典は祝辞・ボランティアさんへの感謝状贈呈・50 年のあゆみのスライド上映。記念フォーラムでは現・旧職員が「いずみ病棟の昔と今」をテーマにいずみ病棟との出会いやそれぞれの思いをスピーチしていただき、祝賀会にも多くの関係者が参加され、いずみ病棟の発展を祈念し、語り合いました。いずみ病棟の歴史を振り返り、当時は懐かしみ、次の時代に繋がる素敵な記念行事となりました。

行 事を開催するにあたり、当センターの各部署職員、関係機関や団体、ご家族等で協力し準備を進め、手作り感溢れる記念行事ができたことに深く感謝しています。

今 後も、いずみ病棟のみなさんの生活が充実したものになるように、ご理解、ご支援のほどをよろしくお願い致します。



↑元データ (JPEG) をください。

編集後記

新年明けましておめでとうございます。令和の時代となり初めての正月を迎えました。皆様にとりまして令和2年が飛躍の年となりますことを祈念しております。そして、福岡東医療センターを宜しく願います。

新春号にふさわしく江崎病院長の巻頭言と“地域へつなげる、つながる取り組み”の特集を組みました。福岡東医療センターと地域医療の連携に貢献できる様に取り組んでいきたいとの思いで当院の地域連携室の紹介を掲載しています。そして、特集の診療科紹介では冬場に

増加する感染症患者さんを考え、感染症内科にお願いしました。感染症センターの訓練等も、紹介しております。チーム医療では、緩和ケアチームと呼吸ケアサポートチームの活動を紹介します。また、当院のおすすめスポット、市民公開講座・いずみ病棟設立 50 周年について報告したいと思います。

小生がちどり編集に携わらせて頂いた当初に比べ、いろいろな内容を掲載できるようになってきたかなと感慨深く感じます。

最後に、体調管理に気をつけ、良い年になる様なスタートをきりたいものです。今年も“ちどり”を宜しく願います。

(大賀記)

外来担当医一覧 令和2年1月1日現在 ※最新の担当医はホームページをご覧ください。https://fukuokae.hosp.go.jp/

受付時間

- 1) 午前8時30分から午前11時00分まで。 ※予約の方は、指定された時間において下さい。
 2) 土・日・祝祭日・年末年始は休診です。当院は救急告示病院です。救急の方は、診療時間外でも受付いたします。

診療科		月	火	水	木	金	
内科新患(別紙参照)		当番医	当番医	当番医	当番医	当番医	
脳神経内科	新患	田中 恵理	立花 正輝	古森 元浩	田中 恵理	黒田 淳哉	
	再来(脳血管内科)	三浦 聖史	中根博・古森元浩	黒田 淳哉	村谷 陽平	立花 正輝	
	再来(神経内科)	-	田中 恵理	田中 恵理	九大医師	-	
糖尿病	新患	野原 栄	-	原 功哉	担当医	堤 礼子	
	再来	堤礼子・原功哉	-	野原栄・堤礼子	原 功哉	野原 栄	
血液内科	新患	-	担当医	担当医	-	担当医	
	再来	齋藤 統之	齋藤 統之	黒岩 三佳	-	黒岩 三佳	
消化器内科(消化管・肝臓・膵臓)	肝	高尾 信一郎	多田 靖哉	埜田 あかり	多田靖哉・高尾信一郎	-	
	膵胆	松尾 享	大越 恵一郎	松尾 享	松尾 享	大越 恵一郎	
	消化管	藤井 宏行	坂井 慈実	細川 泰三	田中 宗浩	糸永 周一	
腎臓内科	新患	松枝 修明	黒木 裕介	黒木 裕介	竹内 実芳	生島 真澄	
	再来	黒木 裕介	松枝 修明	竹内 実芳	黒木裕介・生島真澄	松枝 修明	
循環器科	第一診察室	小池 明広	小池 明広	小池 明広	小池 明広	小池 明広	
	第二診察室	細谷 まるか	野田 裕剛	梶山 渉太	中司 元	升井 志保	
呼吸器科	新患	中野 貴子	田尾 義昭	高田 昇平	吉見 通洋	山下 崇史	
	再来	田尾 義昭	高田 昇平	吉見 通洋	高田 昇平	田尾 義昭	
		山下 崇史	山下 崇史	中野 貴子	迫田 宗一郎	吉見 通洋	
		木村 信一		木村 信一	中野 貴子		
呼吸器外科		岡林 寛	濱武 大輔	前川信一・阿部創世	中島 裕康	岡林 寛	
外科	新患	大賀丈史・信藤由成	(手術日)	辻田英司・笠木勇太	(手術日)	大賀丈史・笠木勇太	
	再来	大賀 丈史		辻田 英司		辻田英司・信藤由成	
	乳 腺	-		笠木 勇太		中山 湧貴	
		-		石田 真弓		石田 真弓	
血管外科		-	隈 宗晴	隈 宗晴	(手術日)	-	
整形外科	新患	中家 一寿	福元 真一	(手術日)	吉田裕俊・松原弘和	(手術日)	
		岡本重敏・名取孝弘	柴原 啓吾		吉武 孝次郎		
	再来	福元 真一	吉田 裕俊		中家 一寿		
		松原 弘和	岡本 重敏		柴原 啓吾		
			吉武 孝次郎	名取 孝弘			
脳神経外科	新患	大城 真也	保田 宗紀	(手術日)	大城 真也	保田 宗紀	
	再来	保田 宗紀	大城真也・保田宗紀		大城真也・保田宗紀	大城 真也	
皮膚科(予約・紹介状をお持ちの方のみ)		古賀 哲也	古賀 哲也	古賀 哲也	古賀 哲也	古賀 哲也	
小児科	午前	一般	中原 和恵	松永 遼	中原 和恵	桜井 百子	中原 和恵
		専門(予約)	増本 夏子		石崎 義人	水野勇司・河原隆浩	馬場 理絵子
	午後	専門(予約)	石崎 義人	水野勇司・桜井百子	中原和恵・石崎義人	増本 夏子	中原和恵・石崎義人
			中原 和恵	血液(江口克秀)	循環器(福岡将治)	(馬場理絵子)	馬場理絵子・桜井百子
		アレルギー(第2・4)	腎臓(今井崇史)(第4以外)			小児神経(米元耕輔)	
放射線科	新患	月～金 松村 泰成 (※事前に必ず電話予約が必要です)					
	再来	松村 泰成	松村 泰成	松村 泰成	松村 泰成	松村 泰成	
歯科口腔外科		吉田将律・沖永耕平	吉田将律・沖永耕平	吉田将律・沖永耕平	吉田将律・沖永耕平	(再来のみ)	
婦人科		内田 聡子	内田 聡子	内田 聡子	(手術日)	内田 聡子	
		河村 英彦	河村 英彦	河村 英彦		河村 英彦	
救命救急センター・救急科		奥山稔朗・安田光宏・八木健司					

* 小児科の入院依頼や受診相談は、病院代表 092-943-2331 から
 小児科紹介担当医師(月・馬場理絵/火・馬場晴/水・桜井/木・石崎/金・松永)へ、
 夜間休日は小児科当直へご連絡ください。

- 物忘れ外来《特殊外来》
 完全予約制(内科外来 内247)【担当医 田中 恵】
 『金曜日 13:30～14:30』予約受付は平日 月～金 13時～15時の間でTEL予約
- 緩和ケア外来
 完全予約制(担当看護師 内8184)【担当医】『火曜日・木曜日 午前中』

独立行政法人国立病院機構
福岡東医療センター
 〒811-3195 福岡県古賀市千鳥1丁目1-1
 HP <https://fukuokae.hosp.go.jp/>
 TEL 092-943-2331
 0120-212-454 (地域医療連携室)
 FAX 0120-087-437